



# 年次報告 2020

公益財団法人 国際開発救援財団



## ご挨拶



理事長 飯島 延浩

法人賛助会員、個人賛助会員をはじめ、FIDRをご支援くださる皆様に、日頃よりのご支援、ご協力に対し厚く御礼申し上げます。ここに2020年度の年次報告をお届けするにあたり一言ご挨拶申し上げます。

財団設立30周年を迎えた当年度は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による影響を受け、海外での事業活動も一部で延期や取り止めに余儀なくされました。

さらに、ネパールでは大雨が、ベトナムでは7つの台風が襲い、家屋崩壊等の甚大な被害が発生しました。現地では感染対策を講じつつ迅速な緊急支援に取り組みました。これまでに経験のない状況に直面しましたが、一つまた一つ乗り越え、少しでも多くの人々に支援が届くように努めて参りました。

皆様におかれましては、先行き不透明な状況が長引く中にありましても、FIDRへの変わらぬご支援を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

FIDRは今後も、ご支援者の皆様の期待にお応えすべく、海外の事業地における新たな種蒔きに努め、着実な前進を期して参ります。また、2021年は東日本大震災から10年の節目を迎えました。これまでの経験をもとに、国内外で災害が発生した際には、いっそう効果的な緊急援助活動に取り組む所存です。引き続き、皆様の温かいご支援とご協力を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

<b>目次</b>	ご挨拶	2
	2020年度のFIDR	3
	活動地とプロジェクト概要	4
	コロナ禍に屈しない力を育んだFIDRのプロジェクト	6
	<b>国際協力援助</b>	
	カンボジア	8
	ベトナム	10
	ネパール	12
	共催事業	13
	緊急援助	13
	みなさまとともに	14
	広報啓発	16
	会計報告	17
	FIDRについて	18

## 2020年度のFIDR

FIDRは2020年6月に国連経済社会理事会の特殊諮問資格が認定され、国連NGOの一員となりました。



311 法人と 2,420 人を超える個人の支援者の皆さま

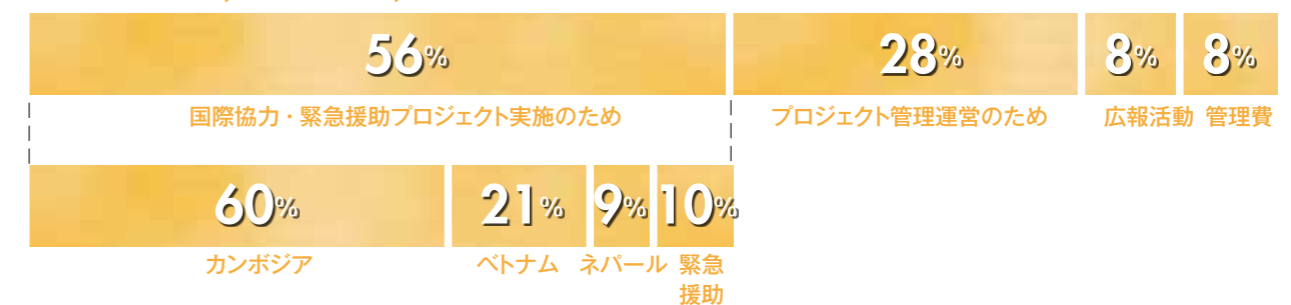
お預かりした資金

¥254,521,000



資金の使い方

¥251,222,000



※詳しい会計報告はP17をご覧ください

# 活動地とプロジェクト概要

2020年度は、3か国において農業、食糧、栄養、医療、教育、産業育成の6分野で9プロジェクトと、緊急援助の2プロジェクトを実施しました。FIDRは支援活動を通じて「持続的な開発目標」(SDGs)の達成に積極的に貢献しており、各プロジェクトは主に10のゴールに結びついています。



### SDGs (持続可能な開発目標) とは

世界の持続的な繁栄を目指し、あらゆる形態の貧困を終わらせるとともに気候変動や経済的不平等の問題などに対処するべく、各国の政府、市民、企業が協力して取り組む指針として掲げられた17の目標です。2015年に国連サミットで採択され、2030年までに達成を目指すことがうたわれています。

## カンボジア

カンボジアの地方で小児外科の医療体制をつくりあげる

### カンボジア小児外科支援

期間 1996年10月～2022年3月(予定)  
対象地 クラチェ州およびブノンベン市  
受益者 国立小児病院とクラチェ州の病院・診療所の医療従事者約**1,000人**  
年間約**300人**のクラチェ州病院小児外科患者およびその保護者



農業の生産力アップ&家族の健康促進

### コンボンチュナン州農村開発

期間 2011年4月～2022年3月(予定)  
対象地 コンボンチュナン州内3郡9地区63村  
受益者 約**48,000人**(11,774世帯)



栄養教育の普及により、子どもたちに笑顔と健康を

### カンボジア栄養教育普及

期間 2017年4月～2025年3月(予定)  
対象地 カンボジア全国  
受益者 教育省および職員  
全国の公立校(小中高)の教員および生徒とその家族



## ベトナム

山岳地域を自らの力で丸ごとプロデュース

### ナムザン郡地域活性化支援

期間 2016年4月～2021年3月  
対象地 クアンナム省ナムザン郡  
受益者 ナムザン郡の住民約**23,000人**(5,670世帯)



もっとも貧しい地域で、栄養不良の子どもを減らす

### ベトナム中部生活改善と子どもの栄養改善

期間 2019年4月～2024年3月(予定)  
対象地 コントウム省内9郡1市  
受益者 コントウム省全域の5歳未満児(約**55,000人**)とその保護者世帯



ナムザン郡の実績を土台に広域で産業育成

### ベトナム中部発展型農村総合開発

期間 2019年4月～2026年3月(予定)  
対象地 クアンナム省9郡1市の住民  
受益者 クアンナム省9郡1市の住民  
**304,381人**(80,850世帯)



## ネパール

山村に安全な学び舎を

### ネパール学校環境改善

期間 2017年8月～2021年3月  
対象地 ラメチャップ郡ゴクルガンガ地区/ダーディン郡ニラカンタ市  
受益者 対象地の学校に通う子どもと教員および住民約**7,500人**



農業の生産性向上で収入安定&子どもの健康増進

### ネパール地域総合開発事業

期間 2020年12月～2026年3月(予定)  
対象地 ソルクンプ郡ネチャサリヤン地区/オカルドゥンガ郡チサンクガディ地区  
受益者 2地区の住民約**18,500人**(3,200世帯)



## 緊急援助

被災された人々の生活の再建と地域復興のために

### 新型コロナウイルス感染予防支援

期間 2020年3月～2020年12月  
対象地 東京都、カンボジア  
受益者 都立墨東病院、昭和大学病院、都内の福祉関連施設、障がい児施設3か所

### ベトナム中部台風緊急援助

期間 2019年10月～2020年3月  
対象地 ベトナム中部2省5郡  
受益者 クアンナム省4郡(3,500世帯)/コントウム省ダックグレイ郡(450世帯)

## 共催事業

ベトナムの医療技術の向上と人材開発のために

### ベトナム国際医療技術協力

期間 2020年12月～2021年3月  
対象地 ベトナム・ハノイ市、ホーチミン市、日本  
受益者 ベトナム政府保健省および医療従事者



### 参加しているネットワーク

- 日本  
国際協力NGOセンター／栄養改善事業推進プラットフォーム  
ジャパン・プラットフォーム
- ネパール  
Association of International NGOs in Nepal
- カンボジア  
Cooperation Committee for Cambodia  
Japanese NGO Workers' Network in Cambodia  
Scaling Up Nutrition Civil Society Alliance in Cambodia【執行委員】
- ベトナム  
Vietnam SRI Network【発起人】  
Networking of International NGOs working in Vietnam  
ASEAN Agricultural Extension Networking  
Health Sector Network in Vietnam  
Scaling Up Nutrition Civil Society Alliance in Vietnam



# コロナ禍に屈しない力を育んだ FIDR のプロジェクト

2019年12月末から瞬く間に全世界へと広がった新型コロナウイルス。しかし、そこにはたくましく

生きる人々の姿がありました。

## コロナ禍に見舞われたFIDRの事業国

FIDRが活動する東南アジアの国々やネパールでの新型コロナウイルスの感染状況は、欧米諸国での感染爆発の報道に隠れて報道されることはほとんどありませんでしたが、その影響は決して小さなものではありませんでした。

カンボジアでは、2020年1月下旬から3月にかけて感染者数が徐々に増加。出稼ぎや不安定な雇用で収入を得ていた人たちの多くは収入の途を失いました。ベトナムでは、政府が比較的早い段階から入国制限や学校の休校措置、感染が疑われる人の隔離措置などの対策を徹底しました。感染者数は比較的少数に抑えられましたが、人々の生活に大きな影響がでました。ネパールでも、国内移動の制限や都市部のロックダウンがたびたび発令され、さらにインドでの感染急拡大の影響が及び、瞬く間に感染者数が上昇しました。

## 支援に頼らない

新型コロナウイルスは、2020年度のFIDRのプロジェクトの実施にも影響しました。予定していた活動のスケジュールや方法を変えたり、中止したりと、いずれの国でも対応に追われました。そうした中で、プロジェクトの現場の人々に見えてきたものがありました。

FIDRは、カンボジアのコンポンチュナン州で、住民が出稼ぎに頼らず、自らの力で生活状況を改善していけるように、農業や養鶏、家庭菜園に関する技術指導を行ってきました。コロナ禍のカンボジアでは、外国や都市に出稼ぎに行っていた人の多くが職を失いましたが、ここの人たち



ロックダウン下のカトマンズ（ネパール）



校庭に芝生を植える教員たち（ネパール）



感染予防のために手洗いをする子どもたち（カンボジア）



農村地域での研修はソーシャルディスタンスを保って実施（カンボジア）



特産品のペットボトルホルダーを見せてくれるおじいさんたち（ベトナム）

は、着実に農業によって生計の基盤を維持でき、大きな影響を受けずに安定的に生活を営むことができました。

ネパールでは、2019年にFIDRが建設したラメチャップ郡の学校2校も長期間の休校となりました。国内の移動制限の影響で、FIDRスタッフは現地に行くことができず、予定していた教育研修は中止とせざるを得ませんでした。そのような中で、新しい校舎での授業を心待ちにする子どもたちのために、教員たちは、校庭を整備したり新設したトイレの近くに手洗い場を設けたりと、子どもたちが日常的に衛生を心がけて行動できるよう、環境を整えました。

ベトナムでは、ピンチをチャンスに変えました。長年支援してきた中部山岳地域に住む少数民族カトゥー族にとって、大きな収入源は観光ツアーでしたが、新型コロナウイルスの感染防止のために一切中止していました。

観光収入が減る中、織物、農産物、かごなどの特産品の新たな販路を開拓したり、オンライン版の観光ツアーを開発するなど、工夫することで、コロナ禍前の収入を上回るまでになりました。

3か国ともコロナ禍で厳しい状況に陥った人に対する政府の支援はほとんどありません。けれどもFIDRのプロジェクトを経験した人々は様々な形で自ら工夫し、乗り越えています。地域の課題を根本から改善する取り組みを地道に続けてきた成果が、ここに確かに表れたといえます。これもひとえに皆様の長年のご支援のおかげです。FIDRを支え続けてくださることに、心より感謝申し上げます。





国際協力援助

# カンボジア

習った補完食を子どもに食べさせるお母さん

## カンボジアの今

長い内乱の時代を経験し、東南アジアの中で最も発展が遅れた国のひとつとなっていますが、近年は軽工業を中心に外国からの投資を増やし、堅調な経済成長を続けています。都市部には高層アパートや大型商業施設が立ち並ぶ一方で、国民の4人に3人が暮らしている農村では変化は乏しく、依然として貧困に苛まれる人々が少なくありません。そうした人々は工場や建設現場などでの出稼ぎで収入を得ていますが、2020年から新型コロナウイルスの感染拡大により、仕事を失ったり、健康を損ねたりする影響が生じています。

## 農業生産性の向上や栄養不良の改善という成果が表れた コンポンチュナン州農村開発

**背景** カンボジアでは貧困層の約9割が農村部に暮らしており、生計基盤である農業の生産性の低さ、保健・栄養に関する基礎的な知識不足が大きな課題です。農業技術を高めて食生活と収入を向上させるとともに、子どもの健康を増進するための実践を普及しなければなりません。

当年度は、新型コロナウイルス感染拡大への懸念から、予定していた活動のスケジュールや実施方法の変更を余儀なくされ、多くの人が集まる公衆衛生キャンペーンや行政職員的能力強化研修などは中止せざるを得ませんでした。

一方で、これまでの取り組みの成果が確実に表れました。2017年度より生産性の向上や営農の多角化を目指して研修を実施してきた25村4,552世帯では、SRI農法<sup>\*1</sup>、家庭菜園、養鶏を実践する農家が前年度は全対象世帯の6割であったところ、当年度は7割を大きく超えました。2019年1月より対象地域となった7村1,635世帯でも、新しい農業技術を取り入れた世帯が5割ほどになりました。SRI農法による稲の収穫高は慣行的な農法と比較して、3割以上の増加となっています。また、FIDRが設立を支援し、能力強化を行った4つの農民組合は、有機野菜や鶏、卵の販売や精米等によって、年間を通じて純利益を出すことができました。

衛生改善の研修に加え、乳幼児のための補完食<sup>\*2</sup>づくりの実習を行った結果、家で補完食を作るようになった世帯の割合は6割を超え、5歳未満の子どもたちの栄養不良率は2割を切るまでになりました。

保健ボランティアのスース・サリーさんは、FIDRの活動に参加する前を振り返ってこう語りました。「以前は、村の人たちは衛生や保健の問題を理解していなかったため、家にトイレはなく、子どもたちはよく下痢をしていました。でもFIDRの活動に参加してから、手を洗うこと、食器をきれいにしておくこと、トイレを清潔に保つことなどを学びました。また、毎日の食事を栄養バランス良く取るようになりました。私は周囲の人たちに健康や衛生に関する知識を教えることを、とても幸せに感じています。これからも学んだことを活かして、この村を良くしていきたいです。」

<sup>\*1</sup> SRI(System of Rice Intensification) 農法：化学肥料を使わず、少ない種籾や水と自作の有機肥料により稲を育て、収穫増加を図ることができる。開発途上国に適した農法。  
<sup>\*2</sup> 補完食：生後6か月から2歳までの乳幼児に、母乳だけでは不足しがちな栄養分を補うために与える具入りのお粥。  
当プロジェクトは、外務省の平成31年度日本NGO連携無償資金協力を受け実施しています。



養鶏研修



家庭菜園を始めた若者

## クラチェ州病院の病棟建設工事を開始 カンボジア小児外科支援

当年度はクラチェ州の医療現場においても、新型コロナウイルスへの感染予防対策が急務となり、FIDRは州保健局からの要請を受けて消毒剤噴霧器や非接触型体温計などを提供しました。

以前から継続して実施してきた日本人専門家の派遣による州病院外科の職員に対する技術研修は、オンライン方式に替えて行いました。院内での外科医・看護師の研修会はほぼ予定通り実施できました。

12月からはクラチェ州病院の外科と産科の新病棟建設を開始しました。作業の安全と施工品質に十分に注意を払うとともに、工事関係者の感染対策も徹底して行っており、順調に進捗しています。

入院患者ならびにその付き添い家族を対象とする患者教育は計23回実施し、新型コロナウイルス感染予防対策をはじめ様々な内容を伝えました。また、州のラジオ番組に出演して、小児外科疾患の症状を紹介する啓発を行い、子どもの具合が悪い時には、すぐに病院や保健センターを受診することの大切さを知らせました。



FIDRスタッフと保健局長が工事の進捗をモニタリングしながら質の高い施工を進めています

**背景** 5歳未満児の死亡率が他のアジア諸国に比べて高いカンボジアでは、小児外科診療の能力と体制づくりが遅れていることが重要な課題のひとつです。特に地方における医療格差は大きく、的確な外科的対応を受けられない子どもが多く存在します。

当プロジェクトは、外務省の令和2年度日本NGO連携無償資金協力を受け実施しています。

## 教科書執筆が前進するとともに学校の衛生環境も改善 カンボジア栄養教育普及

当年度は、小学2年生、5年生、中学2年生向けの保健教科書の栄養単元の執筆を完了しました。執筆作業は前年度に引き続き、教育省学校保健局の担当者と共同で行い、同時に栄養の基礎講座や教科書内容についての指導を行いました。

将来、全国に栄養教育を普及させるためのモデルとなる小中学校4校の教員に対する研修を継続し、当年度は、栄養と密接な関係がある「水と衛生」に関するテーマも扱いました。あわせて手洗い場や飲料水タンクの設置を支援しました。子どもたちの衛生に対する意識も高まり、授業前後の手洗いが実践されるようになりました。

また、2017年にFIDRの支援で制作した、学齢期の子ども向け「食生活指針」の指導者向け動画教材6巻が完成し、教育省から承認されました。この動画は、教育省の公式Facebookでも公開されたほか、栄養改善に関わる事業を行っている団体などでも共有され、さまざまな方面からの関心を集めています。



せっけんを使って手を洗うようになった子どもたち

**背景** 国民の栄養状態が他国に比べて顕著に劣るカンボジアでは、全国の小学校・中学校・高校で正式な教科となる保健科目の中で、栄養分野の指導を重視していますが、カリキュラム構築から教科書の執筆、教員の養成に至るまで、専門的な技術が不足しているため、FIDRは教育省から支援を要請されました。





伝統舞踊「トゥントゥンヤヤ」を踊るカトゥー族

## 国際協力援助 ベトナム

### 危機をしのぎ地域の収入増加

#### ナムザン郡地域活性化支援

#### ベトナムの今

ベトナムは、1986年にドイモイ（刷新）政策による市場経済システムを導入して以降、着実に経済成長を遂げています。政府は2045年までに先進国の仲間入りを果たすという目標を掲げ、近年は国際的な舞台での存在感も増えています。その一方で、都市部と農村部の経済格差が広がり、とりわけ北部と中部の山間部における少数民族地域の貧困問題への対応が重視されています。



オンライン事業完了報告会に登場した、現地のカトゥー族。その自信に溢れた笑顔が、プロジェクトの成功を表していると評されました

**背景** FIDRが2001年からベトナム中部のクアンナム省ナムザン郡タビン社を中心にカトゥー族とともに進めてきた地域開発の取り組みは着実に実を結び、2012年から住民が主体的に取り組む観光開発により地域振興を図るまでにになりました。これを基盤に同郡全域での産業育成へと展開するための人材育成と組織の強化が課題となっています。

2016年度から実施してきた当プロジェクトは、最終年度にコロナ禍に見舞われ、これまで地域収入の大きな柱であった観光ツアーや織物製品の販売が実施できなくなりました。住民の生活への影響は避けられないという予測に反して、農作物の大量注文が続き、観光分野での収入の減少を補完したことから、地域内の収入は前年度の収入を上回りました。コロナ禍に、突如として大きな注文を受けても適切に対応できたことは、4年間のプロジェクトを通して、少数民族の人々の連携力と非常時にも機能する物流の仕組みが育っていたことの証明となりました。当プロジェクトは目的を達成し、計画通り完了しました。

ナムザン郡協同組合\*はこの4年間を通じて15万ドル余りの収入を得ました。以前は地場産業がなく極めて零細な農業を営んでいた少数民族の人々が、自主的に産業を興し、高い収益をあげられるようになったことは、当プロジェクトの大きな成果です。ナムザン郡ラ・イエー社に住むヴァンさんは、「このプロジェクトで私たちの生活は大きく変わりました。特に変化があったのは収入です。子どもが勉強するためのお金も得られ、暮らしをより豊かにすることができました」と話します。ナムザン郡人民委員会のア・ヴィエト・ソン副委員長は「商品開発やツーリズムを通して、人々の誇りが高まりました。開発された商品は海外でも紹介されています。地域の人々のアイデンティティを育み、伝統を保護するという目的を達成したこのプロジェクトは、クアンナム省の他の郡のモデルです」と評価しました。

ナムザン郡内でも特に奥地にある孤立した農村において、農産物を中心とした地域産品により収入が増加し、郡内がバランス良く発展を遂げていることも、住民及び行政官、JICAから高い評価を得ました。当プロジェクトは「ベトナム中部少数民族地域における地域資源を活用した発展型農村総合開発事業」に引き継がれ、今後はナムザン郡のみの1郡から、クアンナム省9郡に規模を拡大して実施します。

当プロジェクトは、2016年度より独立行政法人国際協力機構（JICA）の「草の根技術協力事業」として、「ナムザン郡少数民族地域における住民主体による地域活性化のための人材育成」という事業名で実施しました。

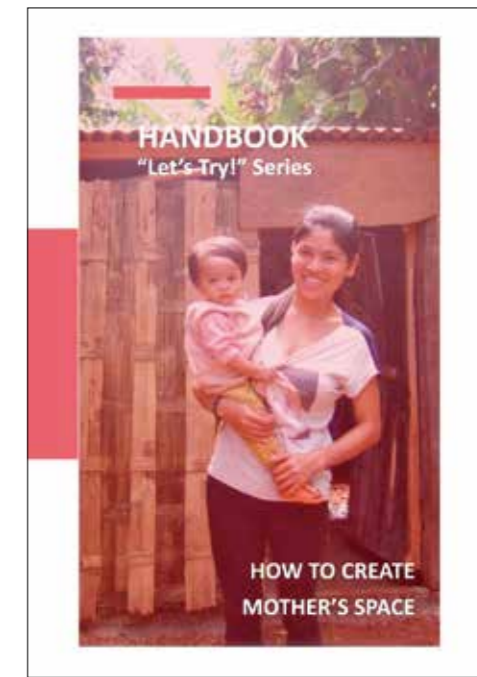
\*ナムザン郡協同組合：観光ツアーの運営とナムザン郡全域から集まる特産品の受注を担う

### 始動に向けた準備が整う

#### ベトナム中部生活改善と子どもの栄養改善

本プロジェクトは当年度に活動を開始する予定でしたが、新型コロナウイルスに加えベトナム中部をたびたび襲った大型台風のため、やむなく次年度に延期となりました。FIDRは、緊急援助を実施するとともに、被災地の栄養改善の支援のために国立栄養研究所とともに被災地での栄養状態の調査を行いました。また、活動を開始次第、効果的な支援を円滑にできるよう、ダナン市のFIDR事務所では、事業地に関する調査を重ねるとともに、栄養や保健分野のオンライン会合に参加し、知見を広めました。

先行事業で高い効果をあげた、トイレ、水浴び場、洗濯場を兼ね備えた各家庭の手作り施設「マザーズ・スペース」はコントゥム省保健局にも高く評価され、参考にする支援団体も現れてきました。マザーズ・スペースは、それを使う住民が、職人、地域の保健普及員や保健局職員と連携して作ります。当年度は、省内での設置を推進するため、先行事業で作成した、家庭向け、保健センタースタッフ向け、郡保健局職員向けの3種類の作業マニュアルを増刷するとともに、国内外でも広く紹介し、誰もが実践できるように一冊の本としてまとめました。マザーズ・スペースの設置には、2021年度TOTO水環境基金からの助成が決定しています。



誰でも「マザーズ・スペース」が作れるよう、一冊の本（英語版、ベトナム語版）としてまとめました

**背景** ベトナム中部にあるコントゥム省は、全国で子どもの栄養不良率が最も高い地域の一つであり、子どもたちの栄養状況を改善する対策が急務です。そのためには、農業生産を通じた食料の安定調達、家庭の衛生改善と地域の協力体制の強化が求められています。

### 地場産品の商品化に向けた取り組みが進む

#### ベトナム中部発展型農村総合開発

当年度は、様々な地場産品の商品化に向けて動き出しました。クアンナム省で産出する良質のタケノコに高い関心を抱いた日本の企業が、その加工技術を現地の住民にオンラインで指導し、商品価値を高める取り組みが始まりました。また、デザイナーとのコラボレーションにより開発された伝統織物を用いた製品が首都ハノイで売られるようになり、ホーチミンにある『無印良品』のベトナム第1号店でも少数民族の伝統工芸品や農産物が販売されるなど、着実に販路が広がっています。

コロナ禍での新たな取り組みも生まれました。外国人向けツアーが中止となったカトゥー族の観光村では、「人の移動が制限される中でも、なんとか自分たちの商品やサービスをお客様に提供したい」という思いから、オンラインツアーの開発を行いました。村の住民たちは初めてタブレットを購入し、村内のインターネット環境も整えました。何度もモニターツアーを繰り返して、オンラインでも村の魅力が伝わるような見せ方の工夫と改善を重ねました。2021年4月からは本格的に開始され、参加者からは、まるで実際に現地を訪問しているようだと言葉が寄せられています。



デザイナーと共同開発された商品

**背景** FIDRが2001年からナムザン郡タビン社を中心に少数民族のカトゥー族とともに進めてきた地域開発の取り組みは、2016年からは郡全体に地域を拡大し、住民が主体となって特産物や観光資源を活用した地域振興を進めてきました。しかしクアンナム省内には依然として変化から取り残された少数民族が多く暮らす郡が存在しているため、これまでのプロジェクトの経験を活かして省全域での産業育成と地域振興が待ち望まれています。





## 国際協力援助 ネパール

学校に通う村の子どもたち

### ネパールの今

国土面積は日本の半分弱ながら、海拔高度は100m以下の平野から8000mを超えるヒマラヤの山々までのきわめてダイナミックな地理に彩られ、そこにさまざまな民族が暮らします。今世紀初頭には王制が崩壊し、不安定な情勢が続きましたがようやく落ち着きを取り戻してきました。しかし、自然災害が頻発する土地であり、2015年には大地震に見舞われました。国民の多くが厳しい境遇におかれ、外国への出稼ぎが大きな収入源となっています。

## 完成した校舎が被災者の避難所として機能 ネパール学校環境改善

当年度は新型コロナウイルスの影響で国内移動の制限や都市部のロックダウン発令により、FIDRの活動も大幅な制約をうけました。前年度までにラメチャップ郡で2校の校舎とダーディン郡で3校のトイレ建設を完了していましたが、当年度計画していた教員研修は実施できませんでした。しかし、学校閉鎖期間中にも電話等で学校との情報共有や協議は継続し、教員たちによる校庭の整備や水飲み場の設置が進められました。当初目指していた「学校の自主的な取り組み」が実現し、プロジェクトの効果が今後も持続すると見込まれます。

ラメチャップ郡では7月に大雨による土砂崩れと洪水により、多数の家屋が倒壊し、田植えをしたばかりの苗も流されてしまいました。新しくできた2階建ての鉄筋



一時避難所となった、FIDRが建設した学校の教室

コンクリート造りの校舎は避難所として大いに役立ちました。FIDRは新型コロナウイルス感染リスクに対処するため、早急な仮設住宅設置が必要と判断し、その資材であるビニールシートやトタン板のほか、米、石鹸を、家屋が全半壊の被害にあった67世帯に支援しました。家屋や備蓄していた食糧を流された被災者からは、安堵の声が聞かれました。



現地調査で住民との話し合いの様子

で農業の生産性向上と衛生改善を図る計画です。また、学校施設の修復などを行い、子どもたちの学習環境改善にも取り組みます。次年度に政府との合意を締結し、活動を開始する予定です。

**背景** ネパールの山岳地域ではインフラが十分に整備されておらず、多くの人々が厳しい生活を送っています。山肌の狭い土地での過酷な農業を離れ、出稼ぎにでる若者が多く、農村の生産力とコミュニティの活力はさらに低下するという悪循環に陥る危険性が高まっています。

## 新しいプロジェクトの計画を策定 ネパール地域総合開発

当年度は、現地調査を重ねてプロジェクトの計画を策定した上で、年度後半に活動の開始をする予定でした。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、国内外の移動制限が課せられ、計画に大幅な遅れが生じました。

現地調査は、インターネットや電話を用いて情報収集し、国内移動が可能になった時点で短期間に効率的にプロジェクト候補地を回り、実際の支援ニーズを検証して、地域の行政担当者及び住民との協議を行いました。

これまで実施してきたプロジェクトの経験を十分に活かしつつ、支援が届いていない地域での活動の可能性を検討し、プロジェクト地としてネパール東部のソルクンブ郡とオカルドゥンガ郡を選びました。この地域では水不足の問題が深刻であることから、先行プロジェクトで実績を上げた農業用ため池や貯水タンクを設置すること

## 緊急援助

## 医療・福祉の現場に物資を提供 新型コロナウイルス感染予防支援

FIDRは企業の皆様からのご協力によりカンボジアと日本で感染予防支援を行いました。カンボジア国内で



(株)カスターネット(植木社長/写真右から2人目)からのご協力により、東京都福祉保健局にアイソレーションガウンを贈呈

は、プロジェクト対象地域の保健局、医療機関などに対し、衛生物資や非接触型体温計、アルコール消毒用の噴霧器を提供しました。日本国内では、サージカルマスクとアルコール消毒液を調達し、都内の病院や福祉関連施設に届けました。また、アイソレーションガウン(医療用防護服)を東京都福祉保健局を通じて、障がい児施設に寄贈しました。

- 主な活動**
- ①医療用マスク、非接触型体温計、アルコール消毒用の噴霧器の提供、新型コロナウイルス感染防止のキャンペーン実施(カンボジア)
  - ②マスク、消毒液、アイソレーションガウンの提供(日本)

## 被災した地域住民を支援 ベトナム中部台風緊急援助

昨年9月上旬から11月中旬にかけて、過去最大級を含む7個の台風がベトナム中部各地を直撃し、洪水、土砂崩れ、家屋流失・損壊など、甚大な被害をもたらしました。FIDRのプロジェクト地であるクアンナム省では約40,000世帯、コントゥム省では約15,000世帯が被害に遭いました。FIDRは台風被害から数か月が経っても、行



支援物資を受け取った地域住民

政や他の援助機関からの支援が届いていない両省に対して、もち米や毛布、鍋など緊急支援を行いました。物資配布の際にも、新型コロナウイルス感染予防のため、全員へのマスクの配布、アルコール消毒、ソーシャルディスタンスの確保などを徹底しました。

ベトナムの年中行事で最も重要な2月中旬のベトナム正月の前に全対象者に配布することを目指し、行政や人民軍、現地ボランティアの協力を得て無事に1月中旬に物資配布を完了することができました。

なお、これらの緊急支援は、多くの方から寄せられた緊急援助募金で成し遂げることができました。心から感謝申し上げます。

- 主な活動**
- ①第1フェーズ(12月):1,150世帯に支援物資配布(食料、毛布、ハンモック等)
  - ②第2フェーズ(1月):2,800世帯に支援物資配布(食料、毛布、鍋等)

## 共催事業

### ベトナム国際医療技術協力

共催団体:公益財団法人国際医療技術財団

ベトナムの歯科技工技術者、歯科医師ならびに歯学部学生を対象に日本歯科技工セミナーがオンラインによって開催されました。日本人歯科技工士により、8つのテーマの講義が行われ、235名が受講した他、Facebookの同時配信により、多数の視聴がありました。

また、伝統医学に関する医療協力プロジェクトの第一

段階として、ベトナムで柔道整復術を普及するための人材育成のため、本邦研修に迎える研修生の審査を行い、4名が選定されました。



日本人歯科技工士により、オンラインで実施された講義

**目的** ベトナム保健省ならびに医療従事者を対象にセミナー開催、研修の実施を通して同国の医療技術および医療サービス向上に寄与することを目指します。



## 新型コロナウイルス緊急援助



### ソントンホールディングス株式会社

戦後の日本人の栄養改善のため、栄養価の高いピーナツバターを製造したソントンホールディングス(株)は、FIDRの健康を守るための活動を継続してご支援くださっています。当年度はカンボジアのクラチェ州において新型コロナウイルス感染防止物資を届けるためにご寄付くださいました。



社員一人ひとりが社会貢献に強い関心を持ち、サステナビリティ活動に取り組まれているミヨシ油脂(株)。コロナに最前線に対応する医療従事者を支援したいとの想いから、FIDRに寄付金をお寄せくださり、FIDRは東京都の病院や福祉施設にマスク等の物資を寄贈することができました。



### 株式会社カスタネット

オフィス用品や防災用品を主力に扱う(株)カスタネットは、長年にわたりFIDRの活動を支援してくださっています。同社が生産するアイソレーションガウン(医療用防護服)500着を寄贈してください、FIDRは東京都の障がい児施設に届けることができました。

### ご寄付いただいた企業・団体(一部)

一龍齋貞花氏(靖国講談会)、井上一千堂、株式会社カジワラ、かみひとねっとわーく京都、企画演劇集団ボクラ団義、京都モーニングロータリークラブ、株式会社サンデリカ大阪事業所、株式会社スーパーヤマザキ、日本フルハーフ株式会社、ふたば会、ホク商事株式会社、有限会社ミタカ製袋(敬称略、50音順)

# みなさまとともに

FIDRは、300を超える法人賛助会員や2,400人以上の個人協力くださるみなさまとともに、開発途上国の子どもたち2020年度のみなさまとのパートナーシップに

人賛助会員のみなさまをはじめ、ご寄付やボランティアでちや自然災害に見舞われた方々のために活動しています。ついて、一部をご紹介します。(敬称略)



山崎製パン株式会社、株式会社不二家、株式会社ヴィド・フランス  
山崎製パン(株)、(株)不二家、(株)ヴィド・フランスは、デイリーヤマザキ、ヤマザキショップ、不二家洋菓子店、ヴィド・フランス等、全国約4,000か所に募金箱を設置し、当年度も継続してヤマザキ「ラブ・ローフ」募金活動を推進してくださいました。



### 月島食品工業株式会社

マーガリンなど加工油脂製品を生産する月島食品工業(株)は、RSPO認証を得て原料となるパーム油の持続可能な調達に取り組むほか、インドネシア人留学生への奨学援助等CSR活動に取り組まれています。FIDRの活動も設立時より法人賛助会員として、また継続的なご寄付を通じて支えてくださっています。



TAMANOHADA

### 玉の肌石鹸株式会社

玉の肌石鹸(株)は、FIDR設立時より法人賛助会員として、また継続的なご寄付を通じて支えてくださっています。同社の三木晴雄会長は企業の社会貢献を重んじられ、途上国の人々の自立支援に対する深い洞察をもって、FIDRの活動を後押ししてくださいました。



### いすゞ自動車販売株式会社

いすゞ自動車販売(株)は、FIDR 設立30周年の祝賀としてベトナム事務所に四輪駆動のmu-X新車1台をご寄贈くださいました。これまでのカンボジア、ベトナム両事務所へのご寄贈に続き今回が4度目のご寄贈となり、プロジェクト地での安全かつ円滑な活動を支えてくださっています。



### 書き損じはがき収集活動にご協力いただきました

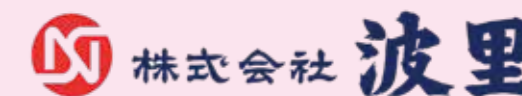
株式会社カジワラ/株式会社新潟ケンベイ/株式会社不二家/三井物産ファシリティーズ株式会社/ミヨシ油脂株式会社千葉工場/ヤマザキ製パン従業員組合本社支部/その他多くの個人の方々(敬称略・50音順)

## ベトナム中部台風緊急援助



### ヤマザキ製パン従業員組合

ヤマザキ製パン従業員組合は、年間を通して行うチャリティー活動で寄せられた募金の一部をFIDRにご寄付くださっています。当年度はコロナ禍で例年のように活動ができない中でも、全国23支部及びグループ組合の皆様が、独自の活動を通じて募金を集めてご寄付くださいました。当年度はこれをベトナム台風被災者支援のために役立てさせていただきました。



栃木県佐野市にある(株)波里は、米粉など和菓子の原材料を扱っています。代表取締役会長の藤波一博氏は地域活性化に尽力されたご功績で、令和3年春の叙勲を受章されるなど、社会的な活動に精力的に取り組まれておられます。同社は法人賛助会員として長年FIDRを支えてくださり、今回はベトナム台風被災者へ支援物資を届けるためにご寄付くださいました。

### ボランティアのみなさん

当年度もボランティアのみなさまに、郵送物の封入作業や発送、広報記事の翻訳など東京事務所の業務を支えていただきました。有志メンバーOne Action with FIDRの皆さんは、初の「オンラインFIDRカフェ」を企画・運営し、広報活動の一翼を担ってくださいました。





当年度は新型コロナウイルスの影響により、従来の対面でのイベントは実施できませんでしたが、オンラインでの情報発信・交流に力を入れ、プロジェクトの現場から直接お伝えする機会も多くもつことができました。

## みる、きく、交流する

### オンラインイベントの開催

- プロジェクト地からリアルな状況を伝える『FIDR現場レポ』を2回開催し、カンボジアから駐在員が、コロナ禍での変化と、栄養教育をテーマにお話しました。
- ナムザン郡地域活性化支援プロジェクトの完了報告会を開催し、現地の少数民族とオンラインでつないで、活動中の様々な工夫や成果についてお伝えしました。
- FIDRの活動や国際協力への理解を高めることを目的としたイベント「FIDRカフェ『知ること、話すことからはじめよう、国際協力』」を初めてオンラインで、ボランティアの皆さんの企画・運営により、NGO海外職員の仕事をテーマに開催しました。(共催：公益社団法人日本国際民間協力会 (NICCO))



「FIDR現場レポ」でカンボジアから報告する甲斐専門家

### ご支援企業・団体内での報告等

ご支援をいただく企業・団体内において、オンライン報告会を実施しました。プロジェクト地とオンラインでつなぎ、賛助会費や寄付などのご協力が役立っていることを現地からご報告しました。法人賛助会員として長年ご支援いただいているミヨシ油脂株式会社の社員の皆さまへのオンライン報告会では、全国の工場や営業所から約40名がご参加くださり、駐在員がコロナ禍の現地の様子をお伝えしました。



オンライン報告会(ミヨシ油脂株式会社)

<報告会>

- ミヨシ油脂株式会社 (11月) ●ヤマザキ製パン従業員組合 (2月)

## 学ぶ

### 外部講師としてオンラインで講演

当年度はFIDR職員がオンラインで講師を務める機会を多くいただきました。計5校の学生の皆様に、異文化理解や国際協力、東南アジアビジネス、国際福祉や国際協力の仕事など様々なテーマで講演を行いました。

<オンライン講演> 宮崎大学 (8月)、筑波大学 (9月)、宮城大学 (12月)、仙台白百合女子大学 (1月)、東京外国語大学 (2月)

### 特設サイトでの情報発信

- ベトナム台風被害緊急援助募金の特設サイトを開設しました。現地の被害状況や最新支援情報を伝え、募金のお願いをいたしました。
- 東日本大震災から10年が経ち、これからの復興を考えていくために、東北の様々な魅力を発信している方を紹介する特設サイト「東北と一緒に、これからも。」を開設しました。FIDRとご縁のある方々の声を届けていきます。(2022年2月まで更新予定)



特設サイトを見る→



## 読む

### 広報誌等での活動内容のPR

FIDRの活動内容やその成果について、ニュースレターなどを通じて、賛助会員をはじめとする支援者の方々へ発信しました。

- FIDR NEWS108～110号の発行 (計3回：4月、10月、1月 各4,500部) ※新型コロナの影響により7月は休刊
- 年次報告2019の発行 (計1回：7月4,300部)
- メールニュースの配信 (計12回：毎月)

### 貸借対照表 (要旨)

令和3年3月31日現在 (単位：千円)

<b>I. 資産の部</b>		
1 流動資産		60,800
	現金預金	60,261
	未収金	72
	前払金	467
2 固定資産		455,425
	基本財産	303,000
	特定資産	136,139
	その他固定資産	16,286
<b>資産合計</b>		<b>516,225</b>
<b>II. 負債の部</b>		
1 流動負債		13,737
	未払金	8,430
	前受金	18
	預り金	1,542
	賞与引当金	3,747
2 固定負債		41,657
	退職給付引当金	41,657
<b>負債合計</b>		<b>55,394</b>
<b>III. 正味財産の部</b>		
1 指定正味財産		397,482
2 一般正味財産		63,349
<b>正味財産合計</b>		<b>460,831</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>		<b>516,225</b>

### 正味財産増減計算書 (要旨)

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで (単位：千円)

<b>I. 一般正味財産増減の部</b>		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 受取会費		143,142
② JICA受託事業収益		8,080
③ 受取補助金等		46,900
④ 受取寄付金		53,463
⑤ 雑収益他		2,936
<b>経常収益計</b>		<b>254,521</b>
(2) 経常費用		
① 事業費		229,965
国際協力援助費	188,542	
緊急援助費	20,755	
広報啓発費	20,668	
② 管理費		21,257
<b>経常費用計</b>		<b>251,222</b>
当期経常増減額		3,299
2. 経常外増減の部		
<b>当期経常外増減額</b>		<b>△ 15</b>
当期一般正味財産増減額		3,284
一般正味財産期首残高		60,065
<b>一般正味財産期末残高</b>		<b>63,349</b>
<b>II. 指定正味財産増減の部</b>		
① 受取補助金等		74,593
② 受取寄付金		32,697
③ 一般正味財産への振替額		△ 78,932
④ 補助金等返還金		△ 5,750
当期指定正味財産増減額		22,608
指定正味財産期首残高		374,874
<b>指定正味財産期末残高</b>		<b>397,482</b>
<b>III. 正味財産期末残高</b>		<b>460,831</b>

※カンボジアの医療機関への新型コロナウイルス感染予防支援は国際協力援助費にて行いました。





# 心をあわせ、未来をひらく

FIDRは、開発途上国の子どもたちの支援と緊急援助を行う、国際協力NGOです。

## FIDRとは

公益財団法人国際開発救援財団（英語名 Foundation for International Development/Relief）＝「FIDR（ファイダー）」は、1990年に日本で誕生した国際協力NGOです。

## FIDRの2つのミッション

FIDRは開発途上国の子どもたちが健やかに育つことができる社会をつくりまします。

FIDRは日本国内の多くの個人、企業、団体の皆様と一緒に、国際協力を推進します。

## ミッションを実行するための3つの事業

### 国際協力援助事業

開発途上国の人々が貧困から脱して、地域が自立的に発展していくことができるように、さまざまな分野で地域に根差した活動を行っています。

### 緊急援助事業

日本を含むアジアの国々で自然災害に見舞われた人々への支援を行っています。

### 広報啓発事業

多くの方々との協力の輪を広げるための情報発信やコミュニケーションを行っています。

## ●団体概要

団体名：公益財団法人国際開発救援財団

英語表記：Foundation for International Development/Relief (FIDR)

代表者：飯島 延浩

設立日：1990年4月26日

行政庁：内閣府

基本財産：3億300万円

事業目的：開発途上国において子どもの福祉を中心とした住民の生活環境の向上及び地域開発の推進に資するための援助事業を実施し、開発途上国の自立的発展及び福祉の増進に寄与する  
海外並びに日本国内における自然災害の被災者への緊急援助を実施し、社会復帰を促進する

賛助会員：法人賛助会員 304 法人

個人賛助会員 2,475 名

事務所設置国：日本、カンボジア、ベトナム、ネパール

※ 2021年7月1日現在

## ●役員・評議員一覧

理事長 飯島 延浩 山崎製パン株式会社代表取締役社長  
副理事長 三木 晴雄 玉の肌石鯰株式会社代表取締役会長  
専務理事 江川 信彦 株式会社サンデリカ監査役  
常務理事 岡田 逸朗 山崎製パン株式会社顧問  
理事 飯島 茂彰 ヤマザキビスケット株式会社代表取締役社長  
理事 岡松 孝男 昭和大学名誉教授  
理事 片山 信彦 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン常務理事  
理事 小西恵一郎 公益財団法人国際医療技術財団代表理事・理事長  
理事 戸田 信之 月島食品工業株式会社代表取締役社長  
理事 長谷川 冴子 東京少年少女合唱隊桂冠指揮者  
理事 日暮 道生 栄香料株式会社取締役会長  
理事 深沢 亮子 ピアニスト  
理事 三木 逸郎 ミヨシ油脂株式会社代表取締役社長兼 CEO  
理事 湊 晶子 広島女学院顧問  
理事 吉田 輝久 飯島興産株式会社代表取締役副社長  
監事 秋山 豊正 税理士  
監事 飯島佐知彦 山崎製パン株式会社取締役副社長

評議員 安西 愈 弁護士  
評議員 飯島 幹雄 株式会社東ハト代表取締役社長  
評議員 神長 善次 株式会社サンデリカ監査役  
評議員 齋藤 昌男 弁護士  
評議員 妹尾 正毅 一般社団法人日本倶楽部理事  
評議員 中川真佐志 オリエンタル酵母工業株式会社代表取締役社長  
評議員 増島 俊之 元総務庁事務次官  
評議員 峯野 龍弘 ウェスレアン・ホーリネス教団淀橋教会主管牧師  
評議員 村上 宣道 一般財団法人太平洋放送協会名誉会長

顧問 秋山 和慶 公益財団法人東京交響楽団桂冠指揮者  
顧問 曾野 綾子 作家

※ 2021年7月1日現在





## ご支援のお願い

\*当財団への賛助会費・ご寄付は税控除の対象になります

賛助会員へのご入会    ご寄付（クレジットカード）



## 情報発信中！

Webサイト、Facebook、Twitter、Instagramにて  
最新情報を発信しています



2021年7月発行

公益財団法人 国際開発救援財団 (FIDR)

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 3F

TEL : 03-5282-5211

FAX : 03-3294-2525

E-mail : [fidr@fidr.or.jp](mailto:fidr@fidr.or.jp)

URL : <http://www.fidr.or.jp>